

ぼだい樹 号

発行所宝寿院
25.4154
津島市神明町 2

弘法大師御影供(ごしょうどう)

弘法大師 空海(くわかい)様は、今より千百六十五年前の三月二十一日午前六時に、入定されました。この時、弟子達に示された御遺告二十五ヶ条の遺言状により、私達が求めて行く道がわかります。たとえば、四国八十八ヶ所を、遍路(へんろ)しますのも、「私に逢いたければ、私が修行した所を訪ねなさい。」と書かれています。ことに、由来します。お大師様を慕う私達は、遍路をして、お大師様にお会いすることが出来るのです。八十八ヶ所を廻りますと、心身ともに壮快な気分を味わう事が出来ます。金剛杖を力に十一日間を遍路して、高野山にたどり着いた時には、同行二人(お大師様と二人)の信仰が、身に付いています。このように、自然のうちに お大師様に近づき感謝が生まれ、三月二十一日が特別の日となり、お姿を掲げて お参りするようになります。宝寿院に伝えられているお姿の掛け図は、弘法大師(ご真筆と箱書きされています。春分の日には、光明殿に寺宝と共に おまつりいたします。二十・二十一日 美味しい甘酒を 接待いたします。

宝寿院歳時記

二月の半ばから「春が来たなあ……」と、小鳥達のさえずりが、とても元気になってきました。楠や椋の木のてっぺんでイカル(鶺鴒)のオスの、メスを呼ぶ鳴き声が空に響き渡っています。里山の広葉樹で冬を越します。ピーピーピリリと、雨中也朝から鳴いています。きつと素敵なお嫁さんに逢うことでしょうか。ハトの小型ぐらいです。メジロやキビタキの声も聞こえてきます。今年も又カラスが、巣作りを始めました。竹藪では、名も知らぬ小鳥達が、愛の交響曲を演奏しています。聞いて下さい。庭では福寿草が日の光を受けて、金色に耀き、チューリップの芽が顔を出しました。

桜



写経

写経は誰でも出来ます。

「字が下手だからイヤ。」と言つ声をよく聞きますが、一字を写す度に仏様が生まれます。一枚の用紙の中に、佛様の世界を作っていくのです。一時間程が目安です。写経をする時は、初めに灯明と線香をあげ、しばらく静かに目を閉じます。次に目を開けて用紙と向き合い般若心経をと念えた後、丁寧に下敷きの字を写します。最後に願い事や、供養したい方の名前を書きます。いよいよ完成です。光明殿の寺宝に囲まれて 写経をする時、「極楽(ごくらく)ってこんな感じですよ。」

宝寿院行事(案内)

三月二十・二十一日 寺宝展・写経会

四月八日(甘茶) お釈迦様 降誕会

五月三・四・五日 スタンプ・ラリー